

2005年1月20日

World Health Risk Management Center (WHRMC)

<http://www.jsrmpm.org/WHRMC.shtml>

世界健康リスクマネジメントセンター 設立趣意書

国際予防医学リスクマネジメント連盟

www.urmpm.org

日本予防医学リスクマネジメント学会

www.jsrmpm.org

(協力) 公益法人 国際協力医学研究振興財団



世界センターの主たる活動

Global Education in Health and Safety Sciences

Global Risk Communication

Global Transfer of Health and Safety Technologies

I. 発起人のご挨拶

WHRMC 世界センターの任務

20 世紀の科学で特筆すべき現象の 1 つは、医療技術ならびに通信技術を含む理工学分野での技術開発であり、現在の指数曲線的な技術革新をもたらしています。これにより開発途上国の日常生活に先進工業国の様々な技術が浸透し、社会・経済のグローバル化が急速に進行しています。このグローバル化により、地球環境問題、地域医療問題、産業医学問題、災害医学、医療事故、薬害、食品衛生問題、国際保健問題、危機管理、メンタルヘルスなど多方面にわたる予防医学の諸問題が増加しています。これらの諸問題の予防にはそのリスクアセスメントの成果を受けてリスクマネジメントを実践することの必要性が認められますが、そのためにはそれに付随する政策や対策に関わる技術開発のみならず、政治経済学、行政学、社会学、環境科学、生態学、行動科学、情報科学、教育学、疫学、統計学など多方面の学際研究が必要です。

他方、21 世紀で最も注目されている科学は生命科学であり、医学では予防医学への期待が日増しに増大しています。つまり、21 世紀は生命の謎が大きく解き放され、生物学を基盤とする人類の生存のあり方が大変貌するということが世界の共通する認識になっています。

これらの観点から、21 世紀に期待される科学の 1 つは生命の基本原則に基づいた安全学の飛躍的な革新であり、これにより 22 世紀への人類生存の道筋が切りひられるものです。このようなビジョンから、予防医学の諸問題に対する科学的対策の策定に貢献する学際的な研究活動の交流を目的とする国際予防医学リスクマネジメント連盟 (URMPM) が 2002 年 4 月に設立され、その本部をスイスに設置しました。

(世界学会のホームページ) www.urmpm.org

この世界学会の第 1 回総会が 2003 年 3 月 27-28 日に国立国際医療センターおよび国立感染症センターにて、日本予防医学リスクマネジメント学会がホスト役となって開催されました。

(会議のホームページ) <http://plaza.umin.ac.jp/~jsrmpm/TokyoConf/index.html>

(会議概要の報告書) <http://www.jsrmpm.org/newsletters/JSRMPM2002.pdf>

この世界学会は国連大学を含む世界の有力大学、国際ないし国立研究所より学長、学部長、所長、部長、教授クラス 300 名以上の参加により発足し、現在は世界 40 カ国以上の会員で構成されています。

この第 1 回世界大会の総会において、健康と安全に関する国際産学共同研究を地球規模で推進するための世界センターを東京に世界学会理事長の責任で開設することが決議されました。それを受けて、世界および日本から国際的に活躍しておられる先生方が国際顧問、理事、国際プログラム委員会ならびに国際評価委員にご参加いただき、世界センター開設が進められました。

世界センターの主たる事業は国際活動であり、1) 医療、健康ないし安全に関する地球規模のリスクコミュニケーションと情報発信、2) 世界規模での国際産学共同研究と教育の推進、および 3) 医療、健康および安全に関する技術開発および関連技術の産業界への移転を地球規模で協調して行うことです。そのために、国際産学共同研究の補助金交付、世界の大学で開発されている医療、健康ないし安全に関する技術の産業界への移転のための国際学際セミナーの開催、客員制度などによる世界水準の健康・安全に関する国際教育セミナーの開催を行います。

また世界学会では、世界センタの地域下部組織として欧州センター(スウェーデン)、ラテンアメリカセンタ(コスタリカ)、アジアセンタ(マレーシア)、アフリカ・センタ(南アフリカ)の設立を開始しています。この地球規模での連動システムにより、医療問題のグローバル化に対処する国際的な学際研究交流の向上が可能となります。すでに2004年8月のコスタリカ国際会議では、同国政府と中米保健機構などが設立に同意し、ラテンセンタ - の開設を進めています。

世界センタは世界規模の産官学界の共同体を目指しており、それには日本の関係者の方々からの支援・指導・助言など広範囲なご協力が不可欠であり、何卒よろしくごお願い申し上げます。

国内の準備会委員

準備会代表

酒井 亮二

センター理事長、国際予防医学リスクマネジメント連盟理事長
日本予防医学リスクマネジメント学会理事長

医療安全関係

高久 史磨

日本医学会会長、自治医科大学学長、元東大医学部長、センター顧問

黒川 清

日本学術会議会長、東京大学先端科学技術研究センター教授、センター顧問

永井 良三

東京大学医学部附属病院長、器官病態内科学講座教授、センター顧問

花岡 一雄

東京大学大学院医学系研究科・医学部外科学専攻生体管理医学講座教授、

日本麻酔科学会理事長、センター顧問

吉田 謙一

東京大学大学院医学系研究科法医学教授

小島 通代

日本赤十字九州国際看護大学学長

前東京大学大学院医学研究科成人・タ - ミナルケア看護学分野教授

森 眞由美

東京都老人医療センター副院長

竹下 達也

和歌山大学医学部公衆衛生学教授

世良田 和幸

昭和大学横浜市北部病院麻酔学教室教授

食品安全関係

唐木 英明

内閣府食品安全委員会専門委員、東京大学名誉教授(獣医薬理学)、

日本学術会議会員、センター顧問

感染症・老人福祉

玉城 英彦

北海道大学大学院医学研究科老年保健医学教授、元WHO本部疫学部長

医薬品安全関係

折井 孝夫

NTT 東関東病院薬剤部部長、東大附属病院薬剤部客員研究員

行動医学関係

白川 太郎

京都大学大学院医学系研究科社会医学専攻長、同健康増進・行動学教授

災害・救急関係

室崎 益輝

独立行政法人消防研究所理事長、神戸大学工学部名誉教授(都市安全医学)

林 茂樹

独立行政法人国立病院機構災害医療センター副院長

情報科学関係

木内 貴弘

東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク研究センター教授

武邑 光裕

東京大学大学院新領域創成科学研究科メディア環境学専攻助教授

環境安全・衛生

山本 和夫

東京大学環境安全研究センター長、同教授、センター顧問

松嶋 綱治

東京大学大学院医学研究科社会予防医学講座、センター顧問

安岡 善文

東京大学生産技術研究所地球環境モニタリング教授、センター顧問

大岡 龍三

東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター助教授

リスク経済分析

植田 和弘

京都大学地球環境学堂教授、センター顧問

今中 雄一

京都大学大学院医学系研究科医療経済学教授

文部行政関係

伊勢呂 裕史

世界健康リスクマネジメントセンター理事、地方公務員共済組合連合会理事、

国立教育政策研究所所長、元文部省審議官元文化庁次長

その他

II. センターの概要

1. 名称 World Health Risk Management Center

(和文名) 世界健康リスクマネジメントセンター

2. 世界センター本部の所在地 東京

3. 主たる事業 産官学の共同による地球規模の健康と安全に関する対策の向上。

- 1) 世界の大学による国際産学協同研究の推進(課題の公募制)
- 2) 受託研究
各国の政府および産業界からの安全技術開発に関する国際共同
国際予防医学リスクマネジメント連盟(URMPM)との協力による国際受託調査研究
- 3) 健康、医療および安全に関する世界への情報発信
- 4) 世界の大学からの医療・安全技術の産業界への技術移転に関する国際フォーラムの開催
- 5) 世界学会およびその地域センター(アジア、アメリカ、欧州、アフリカ)の活動支援
- 6) 世界学会学術機関誌「Health」および「Journal of Medical Safety」の出版支援
- 7) その他の出版物の刊行
- 8) 健康と安全に関する国際教育活動

4. 運営の方式

- 1) 運営の最高決議機関は理事会とする。
理事会は定期的に会合を持ち、センター運営状況を監査、助言する。
理事長は専任職とし、理事は当面の間は非常勤職とする。
- 2) 各種事業の策定は以下の組織が行う。
国際プログラム委員会 5年ないし10年間の活動方針の企画、テマ部門制による課題の選定。
(専門部門) 医療安全技術、感染症対策、食品安全、環境安全、災害・中毒、情報、社会システム
国際評価委員会 活動成果の学術的評価
国際スポンサー会議 活動成果の官民による評価。本会議には理事会、国際プログラム委員会および国際評価委員会の正副の長が参加する。会議に参加できるスポンサーは一定額以上の拠出金を事前に届け出た企業の長(ないし、その代理)とする。
- 3) 研究推進は以下の方式で行う。
テマを大学ないし産業界より公募する。
大学から提案についてはその研究費に対するスポンサーを国内外で公募する。
各テマで海外からの研究員をセンターの客員として一定期間在駐させ、随時に検討会を開催する。
- 4) 研究成果発表は以下の方法で行う。
各年度の研究課題代表者による年次総会での発表を行う。
雑誌「Health」ないし「Journal of Medical Safety」にて論文として掲載する。
- 5) 地球規模の視点に立つ健康と安全のリスクマネジメントの国際的な独立大学院を開設する。
世界の大学、研究所との世界規模の連携大学院を設置する。
- 6) 医療関連情報の発信事業はセンターでの専属契約研究員を雇用する。
情報発信は関連企業と共同経営する。
- 7) 事務方は原則として本部と事業別部署による協同で運営する。
(任務) 各種事業の事務、広報(ホームページ、パンフレットなど)、国内外の交渉
各種集会および会合の準備、諸経理
(事務総長) NPO化、賛助企業集め、事務統括。
- 8) センター研究の支部組織
原則として、研究課題の代表者が所属する機関を支部とする。
但し、国際プログラム委員会の推薦を受け、理事会の承認の下に、大学・公私の研究機関をセンター研究の支部組織とすることができる。
研究支部となった組織の長は年次総会において活動成果を報告し、国際評価委員会にて支部継続の妥当性の適否を審査される。
- 9) 国際顧問はセンター活動の助言を行う。
- 10) センターではその運営支援のための国際基金財団を形成します。この基金設立のための寄付金は公益法人国際協力医学研究振興財団を経由して受理する。当該財団への寄付は無税扱いとなります。

III. 役員（発起人一覧）

2005年1月19日現在

国際顧問

（学術関係の顧問）

植田 和弘
黒川 清

京都大学教授、地球環境学堂、京都。
日本学術会議会長、東京大学先端科学技術研究センター教授
東海大学総合医学研究所所長、東京大学名誉教授(内科学)、東京
日本医学会会長、自治医科大学学長、元東大医学部長、同大学名誉教授
東京大学医学部付属病院長、器官病態内科学講座教授、東京
東京大学大学院医学系研究科・医学部外科学専攻生体管理医学講座教授
日本麻酔科学会理事長、東京。

高久 史磨
永井 良三
花岡 一雄

長崎国際大学健康管理学部学長、長崎大学名誉教授(公衆衛生学)、長崎。
東京大学教授、分子予防医学講座、東京
東京大学教授、生産技術研究所情報・システム部門、
地球環境モニタリング、東京。

竹本 泰一郎
松嶋 綱治
安岡 善文

東京大学教授、同大学環境安全研究センター長、東京。
ロンドン大学 Goldsmiths 校リスク人類学教授、ロンドン。
国立コスタリカ大学教授、前副学長、URMPM 副会長、
URMPM アメリカセンター長、栄養学、サンジョセ。

山本 和夫
A. Pat Caplan
Leda Munoz

スタンフォード大学教授、スイス連邦工科大学物理学名誉教授
ロシア科学アカデミー教授、医学モデリング講座主任
ロシア予防医学リスクマネジメント学会理事長、モスクワ。

Som-arch Wongkhomthong
William G. Thilly
Jean-Loius Virelizier
Walter C. Willett
その他

バンコック病院副院長、前東京大学国際保健教授
マツチューセツ工科大学教授、同環境健康センター前所長。ボストン。
パスツール研究所教授、ウィルス免疫学、パリ。
ハーバード大学教授、同大公衆衛生学部主任、栄養学、ボストン。

（政官関係の顧問）

唐木 英明

内閣府食品安全委員会専門委員、東京大学名誉教授(獣医薬理学)、
日本学術会議会員、東京

その他

（産業・財界関係の顧問）

Kjell Andersson
Som-arch Wongkhomthong
その他

Karita Research 会長、URMPM 欧州センター長、ストックホルム
バンコック病院副院長、前東京大学国際保健教授、タイ

理事会

(理事長)

酒井 亮二

国際予防医学リスクマネジメント連盟理事長
日本予防医学リスクマネジメント学会理事長

(理事) 五十音順

伊勢呂 裕史

地方公務員共済組合連合会理事、元国立教育政策研究所所長、
元文部省審議官、元文化庁次長

白川 太郎

京都大学大学院医学系研究科健康増進行動学教授
日本予防医学リスクマネジメント学会副理事長

林 茂樹

独立行政法人国立病院機構災害医療センター副院長

Stephan Morgenthaler

国際予防医学リスクマネジメント連盟会長

その他

スイス連邦工科大学統計学所長、同教授

国際プログラム委員会

酒井 亮二 (委員長)

国際予防医学リスクマネジメント連盟理事長
日本予防医学リスクマネジメント学会理事長

Stephan Morgenthaler

国際予防医学リスクマネジメント連盟会長
スイス連邦工科大学統計学所長、同教授

Leda Munoz

国立コスタリカ大学教授、前副学長、URMPM 副会長、
URMPM アメリカセンター長、栄養学、サンジョセ .

Rusli Bin Nordin

URMPM アジアセンター長、マレーシア理科大学歯学部副学部長

白川 太郎 (副委員長)

国際予防医学リスクマネジメント連盟機関誌「Health」編集長

今中 雄一

日本予防医学リスクマネジメント学会副理事長

京都大学大学院医学系研究科健康増進行動学教授

日本予防医学リスクマネジメント学会副理事長

京都大学大学院医学系研究科医療経済学教授

玉城 英彦

北海道大学大学院医学研究科老年保健医学教授、元 WHO 本部疫学部長

鈴木 信夫

千葉大学大学院環境影響生化学教授

竹下 達也

和歌山大学医学部公衆衛生学教授

森 眞由美

東京都老人医療センター副院長

林 茂樹

独立行政法人国立病院機構災害医療センター副院長

武邑 光裕

東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻助教授

大岡 龍三

東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター助教授

折井 孝夫

NTT 東関東病院薬剤部部長

青木 一雄

大分大学医学部人間環境・社会医学講座予防医学分野助教授

渡辺 浩之

昭和大学横浜市北部病院内科助教授

国際評価委員会

Vsevolod V. Shakin

ロシア科学アカデミー教授、医学モデリング講座主任

Kjell Andersson

ロシア予防医学リスクマネジメント学会理事長、モスクワ、

Banwari Meel

Karita Research 会長、URMPM 欧州センター長、ストックホルム

Transkei 大学教授、国際予防医学リスクマネジメント連盟事務局長

唐木 英明

URMPM アフリカセンター長、南アフリカ

内閣府食品安全委員会委員、東京大学農学部名誉教授(獣医薬理学)、

日本学術会議会員、東京

吉田 謙一

日本予防医学リスクマネジメント学会副理事長

東京大学大学院医学系研究科法医学教授

協力企業

PHP 研究所 (学会機関誌「HEALTH」の出版関係)

その他

IV. 学会の情報

(世界学会)

名称: Union of Risk Management for Preventive Medicine
(和文名) 国際予防医学リスクマネジメント連盟
ホ - ムページ: www.urmpm.org
設立: 2002年3月
本部: スイス連邦工科大学統計学研究所内(ローザンヌ)
国際事務局: コスタリカ。サンノセ市。(メールアドレス) secr-office@umin.ac.jp
支部: 欧州(Karita Research1、ストックホルム)、アメリカ大陸(国立コスタリカ大学)
アジア(国立マレーシア理科大学医学部)、アフリカ(国立 Transkei 大学、南アフリカ)
理事長: 酒井亮二、
会 長: Stephan Morgenthaler
機関誌: HEALTH (URMPM) および JOURNAL OF MEDICAL SAFETY
現会員数: 約 11000 名
参加国数: 40 カ国強
年会費: (個人) 1 万円 (賛助会員) 1 口 20 万円以上

(日本学会)

名称: 日本予防医学リスクマネジメント学会
(英文名) Japan Society of Risk Management for Preventive Medicine
ホ - ムページ: www.jsrmpm.org
設立: 2002年1月
本部: 東京慈恵会医科大学臨床研究開発室
(メールアドレス) jsrmpm-office@umin.ac.jp
理事長: 酒井亮二
副理事長: 吉田謙一、木内貴弘、小島通代、有賀徹、丹羽真一、吉村健清、白川太郎、
鎌江伊三夫、今中雄一
機関誌: 安全医学
現会員数: 約 450 名
年会費: (個人) 5 千円 (賛助会員) 1 口 10 万円以上

注意: これらの学会の賛助会員は、本センターの賛助会員ではありません。